

□新型 iPhone 高級路線で勝負 「X」11月発売 2017.9.14

「有機EL」「全面ディスプレイ」「顔認証」「ワイヤレス充電」「ホームボタン無操作」
米アップルが12日（日本時間13日未明）、スマートフォン「iPhone」の10周年記念モデル「X」（テン）など3機種を発表した。XはiPhoneでは初の有機ELを採用し、全面ディスプレイのデザインが特徴。

□見開きスマホ サムスン先陣 対アップル、来年投入を検討 2017.9.16

韓国サムスン電子は画面を折り畳んで持ち運べるスマホを来年にも商品化する検討を始めた。次世代スマホで各社が開発を急ぐ見開き型で先行を狙う。業界で「フォルダブル」と呼ばれている。普段の持ち運びと通話時は畳んだ状態で使い、動画やゲームの視聴、ウェブ閲覧の際は画面を広げる。

■液晶・次世代ディスプレイ・部材

□豊橋技科大 複屈折性高い液晶材 硫黄含むアルキルチオ基導入

電気特性の異方性向上

2017.9.1

豊橋技術科学大学工学研究科の荒川優樹助教らは、光が通過したときに複数の光線に分けることができる「複屈折性」の高い液晶材料を開発した。分極率の大きい硫黄を含むアルキルチオ基を液晶分子に導入することにより、光特性や電気特性の異方性を向上させた。この技術を応用し高い複屈折性を保ちつつ、液晶分子の向きがそろった配光フィルムの製造技術を確立した。

□液晶パネル一段と下落 8月大口 テレビ用1~4%安 2017.9.2

テレビ向けの大型液晶パネルの価格が一段と下がっている。指標となる32型のオープンセル（バックライトなどがつかない半製品）は、8月の大口向け価格が前の月と比べ1%安い1枚70ドル前後だった、北米や中国でテレビ販売が低迷しパネル需要が鈍っている。

□TVの未来は有機ELではなく「QLED」が握る 米アナリスト予測 2017.9.3

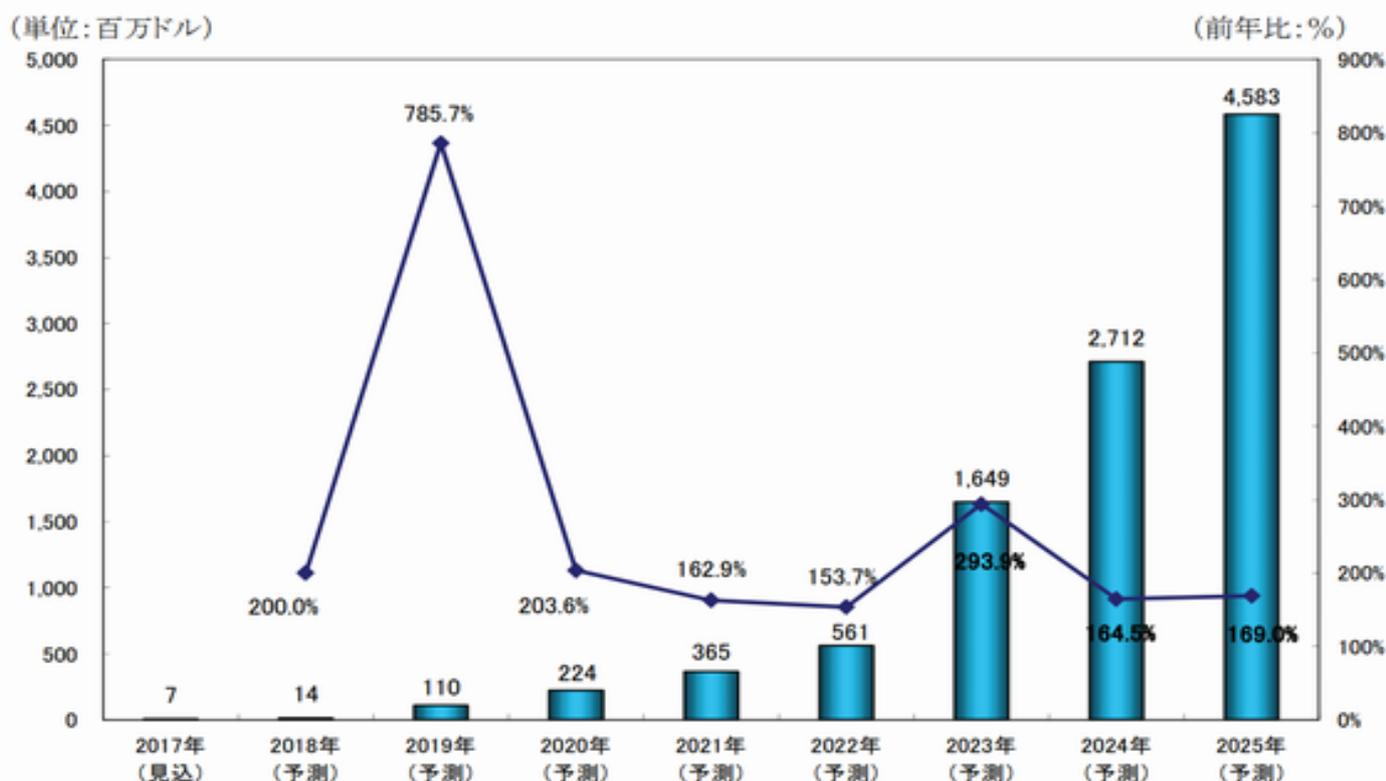
家電業界の専門家によると、テレビ用ディスプレイの未来は、有機EL（OLED）ではなくQLEDにあるという。QLEDとは「QD（量子ドット:Quantum Dot）」の技術を採用したディスプレイのこと。先日、ロサンゼルスで開催された「QLED And HDR10 サミット」で調査企業DSCCの創業者でCEOのロス・ヤングはQLEDテレビの未来と、価格変動の見通しについて語った。QLEDテレビの出荷台数は2016年から2021年にかけて年平均成長率90%で増加し、1億台を突破し市場シェアの34%を占めるようになるという。

□サムスンQLEDテレビの反撃、パナソニック・20世紀フォックスと組む 2017. 9. 5
 量子ドット発光ダイオード（QLED）テレビを掲げたサムスン電子がプレミアムテレビ市場でLGエレクトロニクスやソニーなどの有機ELテレビの「合攻」に反撃カードを切った。サムスン電子はIFA開幕日である1日、ディスプレイ・映像専門家180人を対象に「QLED&HDR10+サミット」を開催し新たなQLEDテレビ強化戦略を公開した。サムスン電子が見つけた解決策はQLEDテレビの全般的な生態系拡大だ。このためにこの数カ月間に米映画会社20世紀フォックス、日本のパナソニックと連合して高画質映像表現技術「HDR10+（ハイダイナミック10プラス）」を開発した。

□2017年比で約650倍に：マイクロLED世界市場、2025年には45億ドル超に

2017. 9. 6

サイズが100μm以下と極めて小さく、フレキシブル基板上に実装すると、折り曲げても割れない「マイクロLED」の市場調査結果を矢野経済研究所が9月4日に発表した。それによると、2017年のマイクロLED世界市場規模は700万米ドルに達する見込みだ。2025年には、その約655倍となる45億8300万米ドルに拡大すると予測する。先導するのはソニーでマイクロLEDを採用した高画質ディスプレイシステムの販売を開始した。Apple、も2018~2019年に発売する予定のスマートウォッチ向けとして採用を試みている。



LCD や OLED ディスプレイでは対応が難しい100型以上の大型ディスプレイや、生産量が少ないスマートウォッチ向けディスプレイなど、ニッチな範囲からマイクロLEDの採用が始まると、矢野経済研究所は見ている。

□中国が初の首位に 大型液晶パネル生産能力 17年推定 投資拡大相次ぐ

2017. 9. 6

台湾の調査会社トレンドフォースの推定によると、2017年の大型液晶パネル生産能力シェア（面積ベース）は国・地域別で中国が初の首位となった。世界シェアは前年を5.6%上回る35.7%となる。2位は台湾で29.8%、韓国は28.8%。

□大日本印刷 VR酔い防ぐ液晶部品 色の重なり抑えたフィルム開発 ゴーグル型向け

2017. 9. 6

大日本印刷は仮想現実（VR）コンテンツの鑑賞などに使うヘッドマウントディスプレイ（HMD）向けに、目の疲労の軽減につながる液晶パネル部品を開発した。光の3原色である青、緑、赤の画素を拡大する微細なレンズを並べたフィルム、目の疲れの原因になる色の重なりを抑える。

□宇部エクシモ 柔らかいシリカ微粒子「狭額縁」スマホの液晶に

2017. 9. 6

宇部興産グループの宇部エクシモは、液晶ディスプレイの基板間の距離を一定に保つために使う微粒子でスマホなどの「狭額縁化」に対応した柔らかい新タイプを開発した。額縁部に配置される電極や配線を傷つけない素材が求められていた。新タイプでは材質に有機を含む「オルガノポリシロキサン」を採用。

□小米、アップル対抗スマホ 縁なしパネルの旗艦機種投入 縮小中国で復活狙う

Jディスプレイ 新型液晶で刷新支える

2017. 9. 12

中国IT（情報技術）機器大手の小米（シャオミ）は11日、液晶の「縁なしパネル」をはじめ採用した高級スマホを発表した。アップルの新型「iPhone」の対抗機種。デザイン刷新を支えたのはJDIの新型液晶パネル「フルアクティブディスプレイ」。JDIがバックライトのミネベアミツミなどと先端技術を持ち寄って開発した。画面周辺のフレーム部分を1mm程度に抑えられるのが特徴。

□JDIの縁なし液晶、中国の小米スマホに初採用

2017. 9. 27



中小型液晶パネル大手のジャパンディスプレイ（JDI）は26日、新型液晶パネル「フルアクティブディスプレイ」が中国携帯電話大手、小米の新型スマートフォンに初採用されたと発表した。

画面周辺の縁の部分を0.5ミリ程度に抑えられるのが特徴で、デザイン性が高く、今後本格的に採用が拡大する見通しだ。有機ELの特長であるスマホのデザインの自由度の高さを液晶で実現したほか、価格も有機ELに比べ3～4割安くできるとみられる。

□ J X T G エネ フィルム精密加工受託

2017. 9. 14

J X T G エネルギーは、フィルムなどの超精密加工の受託事業に進出する。同社は、液晶フィルム製造用にデファクトフリークラスの最新鋭の設備類や技術を保有。これらを活用し、先端加工の必要性が高いものの投資余力などから実行できない中堅以下のフィルムメーカーなどに、前処理から検査にまで至る各工程の受託加工サービスをワンストップで提供する。超精密のフィルム加工の受託事業は世界でも例をみない。

■ 有機 E L

□ 中国・天馬、車載用有機 E L パネル技術確立 21 年メド量産

2017. 9. 13

中国・天馬微電子股份有限公司は、車載向け有機 E L パネル事業に参入する。年内に耐久性など車載向け性能を満たすパネル技術を確立し、2018 年にサンプル出荷を始める。2021 年頃の量産を目指す。天馬微電子の日本法人である **T i a n m a J a p a n** (テンマ・ジャパン) が開発する。耐久性や画面の焼き付きといった性能の信頼性向上が普及の課題。

□ シャープ、J ディスプレイに 有機 E L で協業提案

2017. 9. 12

シャープの桶谷上席常務は 11 日、日本経済新聞の取材に応じ、経営不振のジャパンディスプレイに対して有機 E L 事業での協業を提案していることを明らかにした。

□ 有機 E L ディスプレー 2022 年 3 倍 4 兆 6 1 4 0 億円

2017. 9. 20

富士キメラ総研は 19 日、2022 年の有機 E L ディスプレーの世界市場が 2016 年比約 3 倍の 4 兆 6 1 4 0 億円となる予測を発表した。ディスプレイ全体では、2022 年の市場は 2016 年比 21. 8% 増の 1 3 兆 4 4 3 6 億円と予測。スマホで 2019 年に液晶と有機 E L の構成比が逆転する見通し。

□ 有機 E L 量産 中国動く パネル大手 B O E、準備着々

2017. 9. 21

アップル照準 韓国勢に対抗

中国国有のパネル最大手、京東方科技集団 (B O E) がスマホ向けの有機 E L パネルの商業量産に乗り出す。2020 年までにアップルのスマホ向けの納入を目指し、有機 E L でも世界トップを狙う。有機 E L 用の 2 工場の総投資額は 9 3 0 億元 (約 1 兆 6 千億円) にのぼる。

□ 出光・東レ 有機 E L パネル材料で技術提携

2017. 9. 27

省エネ材料など共同開発、生産設備の共同利用検討

韓国の化学素材大手コーロンとSKCが、来年発売が予想される折り畳み式スマートフォン向けに透明ポリイミド(PI)フィルムの量産を計画している。このフィルムは開いたり畳んだりする動作に強く、折り畳み式スマホには欠かせない素材だ。コーロンインダストリーは透明ポリイミドフィルムの生産ラインを11月に完成させ、来年1～3月期から本格的に稼働させる見通しだ。約900億ウォン(約88億円)を投じてきた。SKCはコーロンとの合弁会社SKCコーロンPIの生産施設を利用して生産する計画だったが、最近SKC独自の新たな生産ラインの建設を検討している。同社の広報担当者はNNAの取材に対し、「折り畳み式スマホ発売後の状況を見た上で、約400億ウォンの投資を実施する計画だ」と話した。

一方、サムスン電子でスマホを担当する事業部は今年、来年の事業計画に折り畳み式スマホが含まれていると言及した。

■タッチセンサー

□日本アジア投資-自動車メーカー純正品カーナビ向け高品質タッチパネルを扱う翔栄への投資を実行 2017. 9. 25

日本アジア投資<8518>は、車載用薄型タッチパネルの開発・製造・販売をトータルに手掛ける株式会社翔栄への投資を行ったと発表。

翔栄の製品は、日本・米国・欧州の自動車メーカーから高い品質と一貫した生産管理体制を評価されており、純正品カーナビゲーション・システムに採用されている。2013年には静電容量式タッチパネルの量産も開始。スマートフォンのように指の操作で画面のスクロールや拡大・縮小ができることが特徴で今後の需要拡大が期待されている。

同社は翔栄のさらなる成長に向けて支援を行う方針。

■新技術、材料

□TDK スマホ型超小型フィルター ノイズ吸収20%向上 2017. 9. 1

TDKはスマホなどに搭載する超小型ビーズフィルターで高周波のノイズを吸収する性能を20%高めた「MMZ0402EUC」を開発し8月から量産を始めた。

フェライトと呼ぶ磁性材料で信号線を囲む「ビーズフィルター」は、電気信号の高周波成分を除去し、IC(集積回路)の誤動作や信号間の干渉を防ぐ。最近の高性能スマホには縦0.4mm*横0.2mm(0402サイズ)と、超小型のチップ型ビーズフィルターが70～80個載っている。0402サイズのチップビーズはTDKのほか村田製作所や太陽誘電などの国内の電子部品メーカーが得意としている。

□三菱ガス化学 LED用 熱・光に強い基板材 変色1/3に 2017. 9. 4
三菱ガス化学はLEDのパッケージに使う樹脂製の白色積層板で、高い熱と光に同時にさらされても劣化しにくい新製品を開発した。2018年から子会社のMGCエレクトロテクノの白河工場で量産する。

□ASML 最先端半導体向け 次世代装置量産へ 回路の微細化 新技術にメド 2017. 9. 5
半導体露光装置で世界首位のオランダのASMLは次世代装置の量産に乗り出す。
「EUV（極端紫外線）露光装置」と呼ばれる次世代型。EUV露光装置は光の波長が従来技術の約15分の1で、より微細な回路を描くことが出来る。価格は1台1億ユーロ（約130億円）以上。

□東レ ナノ多層積層フィルム「ピカサス」好調 2017. 9. 6
東レのナノ多層積層フィルム「ピカサス」の販売が好調だ。波長カット機能を持つことから、スマホやパソコンのブルーライトカット用途で採用が相次ぐ。今後さらにセンサー類を多く搭載する電気自動車(EV)向けの需要も取り込む考えで、通信を阻害しない加飾フィルムとして提案していく。ピカサスは金属調の光沢や波長選択性といった性能を持つナノ多層積層フィルム

□日清紡 白金使わぬ燃料電池 材料コスト数千分の1 2017. 9. 13
日清紡ホールディングスは白金を使わない燃料電池用の触媒の実用化に世界で初めて成功した。白金の代わりに炭素を使うことで材料コストを数千分の1に減らせる。白金を「カーボンアロイ」という炭素の触媒に代替えることに成功した。

□住友ベークライト 光導波路を来年出荷へ 光配線 スパコン速く 2017. 9. 14
電気信号の限界打破
回路基板など電子材料大手の住友ベークライトは2018年にも、光の技術でスーパーコンピュータ内部の通信を速くする配線部品「光導波路」を出荷する。銅線が使われている現在の配線を刷新するテクノロジーだが実用化の例はない。日立化成などが開発している。

□慶応大学・日東電工 8Kケーブル、コスト1/10 普及へ家庭向け開発 2017. 9. 18
慶応大学の小池康博教授のグループと日東電工は、高精細な「8K」放送の普及に欠かせない大容量の光ケーブルを開発した。プラスチック製とすることで、ガラス製に比べ価格を1/10以下に抑えられる見込み。家庭内の機器同士の接続などに向けており映像を遅延なく送信できるようになる、2019年の発売を目指す。

□硬さ変わる高分子材料 光当てるたび軟らかく 東大、ナマコからヒント

2017. 9. 18

東京大学の豊田太郎准教授と本多智助教らは紫外線を当てるたびに軟らかくなる高分子材料を開発した。光の刺激で分子同士の結合が一部で切れドロドロになる。光を消すとすぐにもとの硬さに戻る。体が自在に変形するナマコをまねた。

**□HOYA 3.5型品生産 HDD向けガラス基板
アルミより大容量 データ拠点向け**

2017. 9. 19

**□大阪府大 ナノ多層薄膜 常温常圧で容易構築
縦方向に分子積層化 太陽電池向け立体構造**

2017. 9. 20

□米ソーラー 紫色LEDチップ 発光効率高く低コスト

2017. 9. 22

青色LEDを開発しノーベル物理学賞を受賞した中村修二氏らが創業した米ベンチャー企業のソーラー（カリフォルニア州）が太陽光に近い波長の光を再現できる「紫色」のLEDチップの生産を増やしている。赤と緑、青の蛍光体を通すと、白い光に変わる。波長が太陽光に近いことから自然な色合いを表現できる。

□三菱電機 電力損失が最小 半導体素子開発

2017. 9. 23

三菱電機は22日、炭化ケイ素（SiC）を素材にしたパワー半導体素子で電力損失が世界最小の素子を開発したと発表した。素子の構造を工夫し電力損失を従来比で20%低減した。2020年以降の実用化を目指す。

**□スマホ・車 どこでも充電 電線のない社会を実現へ
置くだけ 走るだけ 感電なし**

2017. 9. 10

□JXTGエネルギー ガラス面に無反射構造 高耐久性を保持

2017. 9. 26

JXTGエネルギーは、反射を防ぐ高耐久の微細構造を、ガラス面に容易に形成できる技術を開発した。ナノインプリント技術を活用したもので、蒸着による既存法に比べ製造コストに優れるうえ、波長域にとらわれず低反射率を実現する。ナノインプリント法で課題だった耐久性を高める構造を見いだした。車載用やディスプレイ用での採用実現を目指す。

■カーエレクトロニクス

□旭硝子、車載ディスプレイ用曲面カバーガラス アウディに供給 2017. 9. 15

旭硝子は14日、独アウディが近く発売を予定する高級乗用車「A8」の新型車に車載ディスプレイ用カバーガラスが採用されたと発表した。二つの車載ディスプレイのうち上部にあるナビゲーション情報などを表示する10・1インチの大型ディスプレイに、曲面カバーガラスが使われた。曲面カバーガラスが量産車に搭載されるのは業界初。旭硝子独自の3次元曲面加工技術を使った滑らかな形状、素材から加工まで一貫生産する高い品質が評価された。旭硝子の日本拠点で製造し、ディスプレイメーカーなどに順次供給を始める。

□中国、ガソリン車禁止へ 英仏に追随、時期検討 2017. 9. 12

中国政府はガソリン車やディーゼル車の製造・販売を禁止する方針だ。英仏が7月に2040年までの禁止を表明したことに追随し導入時期の検討に入った。電気自動車（EV）を中心とする新エネルギー車（NEV）に自動車産業の軸足を移す。

□独自動車ショー開幕 欧州勢EVシフト鮮明 2017. 9. 13 VW、全社種に電動仕様 ガソリン車禁止に対応

□クルマ 異次元競争突入 2017. 9. 16

ルノー・日産が宣言 2022年に完全自動運転 販売の3割電動車に

仏ルノー・日産連合は15日、6年間の中期経営計画を発表した。2022年までに人が運転に関与しない完全自動運転車を実用化するほか、販売台数に占める電動車の割合を3割に高めるのが柱だ。モビリティ（移動手段）を巡る異次元の競争が始まる。

□消える給油所 20年で半減 EV普及の好機 2017. 9. 18

経済産業省の調査によると、2016年末の全国の給油所の数は3万1467カ所、最も多かった1994年度の6万421カ所からおよそ半減。燃費効率の高い車種の普及でガソリン需要が減っている。一方地図大手ゼンリンによると、7月末時点の充電スタンドは全国で約2万9千機。減り続ける給油所の数を年内にも上回りそう。

□スタンレー電気 自動車ヘッドランプ LED化対応に100億円 2017. 9. 21 岡崎に新棟・大型設備 成型・表面処理も内製化

自動車ランプ大手のスタンレー電気は、ヘッドランプの発光ダイオード（LED）化などに対応するために岡崎製作所の更新に100億円を投じる。LEDを光源に使ったヘッドランプは半導体などの電子部品を多く使うため静電気対策などが必要になる。

□アルプス電気、自動運転に照準 車載レーザー部品参入 2017. 9. 26

アルプス電気が自動車用レーザー部品市場に参入する。超小型ガラスレンズを試作し、需要開拓に動き始めた。

車載レーザーの用途

- ・ライダー 周囲の物体の把握
- ・ヘッドランプ 500m先まで照らす
- ・ヘッドアップディスプレイ フロントガラスに情報表示
- ・イルミネーション 車内外を彩る

□パナソニック トヨタへ「電子ミラー」供給 2017. 9. 26

パナソニックは25日、車の後方の状況を映し出す「電子インナーミラー」の供給をトヨタ自動車向けに開発したと発表した。買収したスペインの自動車部品大手フィコサ・インターナショナルと共同開発した初の製品となる。

□トヨタ、EV連合へ呼び水 マツダ・デンソーと新会社 2017. 9. 29

トヨタ自動車とマツダ・デンソーの3社は、電気自動車（EV）の基幹技術を共同開発する新会社を設立したと発表した。他のメーカーを誘う呼び水にし、軽自動車からトラックまで幅広い車種のEVを効率的に開発できる体制をめざす。新会社は「EVシー・エー・スプリット」。

■医療

□村田製作所 医療機器を育成米社買収 電子部品に続く柱に 2017. 9. 23

村田製作所は22日、医療機器開発の米スタートアップ企業、ヴァイオス・メディカル（ミネソタ州）を買収すると発表した。約114億円を投じ10月13日付完全子会社化する。ヴァイオスは医療分野でITの活用を目指している2012年設立の新興企業。胸に装着して心拍数や呼吸、心電図を測定する小型センサーなどを開発している。高額な専用機器のかわりに一般的なタブレット端末などで操作できるのが特徴。

□住友化学、新型バイオ薬 核酸医療VBに2割出資 難病向け視野に参入

2017. 9. 25

住友化学は次世代のバイオ医薬品として注目される核酸医薬品の開発に本格参入する。核酸医薬は遺伝子を構成するDNAなどで作り、特定の標的を狙い撃ちしやすく副作用が少ない。月内にも40億円を投じ、ベンチャー企業のポナック（福岡県久留米市）の新株発行を引き受ける。ポナックは2010年設立で日米欧で核酸医薬の関連特許を持つ。

□コニカミノルタ 米創薬支援ベンチャー買収 320億円 事務機事業頼み脱却

2017. 9. 26

コニカミノルタは25日、320億円を投じて米創薬支援ベンチャー（VB）を買収すると発表した。コニカミノルタが強みを持つたんぱく質の解析技術と組み合わせ、製薬会社の新薬開発コストを減らすことを目指す。主力の事務機事業の先行きに不透明感が漂う中ヘルスケア事業に将来の成長を託す。11月に、米インヴィクロ社（マサチューセッツ州）を買収する。

■企業動向、製品動向

□Galaxy 8 チャレンジスプリットは健在 虹彩認証など新機軸満載

2017. 9

□産業革新機構がJDIを壊滅させた ~ジャーナリスト 大西康之~ 2017. 10

……責任を問われない官僚が、企業経営に介入すべきでない……

日本最大の液晶パネルメーカー、ジャパンディスプレイ（JDI）が重大局面を迎えている。資金が枯渇し外部からの資本注入を模索しているが間に合わなければ年内にも倒産の恐れがある。経済産業省主導の再編で2012年に誕生した国策会社が破壊すれば三千億円近い血税が水泡に帰す。ここに至るまでに一体何が行われてきたのか……

□革新機構、抜本見直しへ 2017. 9. 2

経済産業省が、官民ファンドの産業革新機構について、大幅な組織改編など抜本見直しの検討を始めた。不振企業の救済が目立つといった機構への批判が背景にあるが、2024年度の設置期限を延長する狙いもあるとみられる。期限前に組織を見直すのは機構への根強い批判がある。機構の支援で国内の液晶ディスプレイ業界を再編統合したジャパンディスプレイ（JDI）は経営難が続く。

□Jディスプレイ 管理職ポスト3割減 赤字脱却急ぐ 2017. 9. 27

10月1日付で顧客別に事業部を3つに分けた社内カンパニー制に移行すると発表。

「モバイルカンパニー」：スマホ向け

「車載インダストリアルカンパニー」：車載、産業機器向け

「ディスプレイソリューションズカンパニー」：デジタルサイネージ、VR機器向け
営業体制、CMO職に中国家電大手グループのアクアCEDだった伊藤嘉明氏を招く。

□富士フィルム 新型高級機 苦境デジカメ 底打ち感 2017. 9. 8
各社出荷額、9か月連続増「スマホは卒業」の顧客争奪

□東芝 止まらぬ人材流出 半導体社員に突然スカウト電話 2017. 9. 8
3ヶ月で1000人減 再建の担い手離反 原子力事業でも

□パナソニック 太陽光パネル材料撤退へ ウェハー生産終了 2017. 9. 13
パナソニックは太陽光発電パネルの材料生産から撤退する検討に入った。2017年度中にもシリコンウェハーの生産を終了し、割安な外部調達に全面的に切り替える方針。今後はセルに経営資源を集中する。同社のセルは2種類のシリコンを使う独自設計で、発電効率は業界最高クラス。10月からは米ニューヨーク州に米テスラと競争設立したバッファロー工場でセルを生産し、テスラに供給する。

□カシオ スマートウォッチ アウトドア特化 10機種投入 2017. 9. 16
19年度メド 釣り・スキーなど独自性

□「都市鉱山」処理 世界最大に 三菱マテリアル 希少金属を供給 2017. 9. 19
スマホ・EVから回収
三菱マテリアルは希少金属のリサイクル事業を拡大する。金や銀などが含まれる使用済パソコンやスマホなど「都市鉱山」から回収する設備を120億円で増強、処理能力を世界最大規模にする。EVに搭載されるリチウムイオン電池からニッケル、コバルトなどの希少金属を回収する事業にも参入する。「DOWAホールディングス」「JX金属」も拡大。

□素材メーカー 既存設備で新分野 迅速な増産狙い転用 2017. 9. 26
王子HD 「紙」やめ植物由来品「セルロースナノファイバー（CNF）」
住友化学 「液晶用カラーフィルター」から「有機EL用タッチセンサーフィルム」

□東芝、半導体メモリー事業を「日米韓連合」に売却契約結ぶ 2017. 9. 29
・WDと係争壁に
・独金法の審査も
東芝再生続く難路 日の丸半導体瀬戸際

■その他

- デジタル通貨 中央銀行に待望論 英中など構想 日本も研究 2017. 9. 8
金融政策 効力維持へ
世界の中央銀行が法的な裏付けを持つデジタル通貨の発行を相次ぎ検討し始めている。驚異的な速さでビットコインなどの仮想通貨が普及し続けると資金決済サービスなどで自国通貨の存在感が低下し、いずれ金融政策にも影響を及ぼしかねないとの危機感から。
- 元素のでき方 ウランより先は人工合成 2017. 9. 9
- 進化する「顔認証」羽田で10月導入 個人情報、活用に課題も 2017. 9. 18
顔を撮影し登録画像と照合して本人確認する「顔認証システム」が10月から羽田空港で日本人の帰国手続きに導入される。別のメーカーの「顔認証ゲート」を3台導入する。ゲートで撮影した顔写真をパスポートのICチップに記録されている画像と照合する。
スマホのロック解除やテーマパークの入場チェックなど用途は広がるばかり。
- 量子コンピュータ スパコンを超える夢の計算機 2017. 9
従来のコンピューターに比べて1億倍高速とされる夢のマシン。カナダのベンチャー企業が世界初となる商用機を発売して以降、開発競争は激化している。実用を見据えた「使い道」の議論も進む。夢は現実になりつつある。
- ブランド価値 トヨタ7位に後退 首位はアップル アジア最高位はサムスン 2017. 9. 26
- 世界の時価総額ランキング 新たな寡占 米IT大手5社に集中 2017. 10. 1
「アップル」「グーグル（アルファベット）」「マイクロソフト」「フェイスブック」「アマゾン・ドット・コム」の米IT大手5社にデータや富、頭脳が集中する構図を指す。

以上